

幸の神湧水と幸川、大原川

九州大学大学院工学研究院

正会員 広城吉成

九州大学新キャンパス計画推進室

正会員 横田雅紀

1. はじめに

九州大学は、福岡市西部に位置する伊都キャンパスへの統合移転を進めている。平成 17 年 10 月に工学部の約半分が移転、現在では工学部全体と全学教育の移転が完了している。伊都キャンパス内の中央には、生態系の保全、水環境の保全のために残された沢地があり、生物多様性保全ゾーンと位置づけられている。この沢地には「幸の神（サヤノカミ）湧水」と呼ばれる湧水があり、そこから湧き出る水は地元の農業関係者にとって非常に重要な農業用水源となっている。それゆえ、その湧水が流れる桑原地区は昔から福岡県志摩郡でも「一桑（桑原の略）二荻（荻浦の略）三貝塚」（荻浦、貝塚のそれぞれの場所については、日本図誌大系九州 I（1976）を参照）と称せられ、他郷人から羨ましがられた。人口が少なかった頃は全くの桃源郷であったという（元岡村誌、1961）。一方、周辺地域は水事情が厳しい状況にあり、幸の神湧水をめぐっての地域間紛争もあったとされている。筆者らは、「幸の神湧水と幸川、大原川」について、この地域の水利用・水文化に関する歴史的経緯を記録として残し、今後、この地域の水に関する資料として資するべく取りまとめたものである。

2. 幸の神湧水、幸川、大原川の歴史的背景および地域の概要

平成 17 年 3 月 31 日、福岡市公報(2005)の普通河川の指定の告示の一部改正（第 95 号）により、幸の神湧水が大原川に合流する地点までを幸川と呼び、大原川のうち幸川との合流地点よりも上流部は普通河川大原川、合流後は準用河川大原川とすることが決定された。

元岡村誌によれば、昭和 15(1940)年には打ち続く旱魃で、大久保溜池の貯水量が不足し、農業用の水利に関し水崎地区と桑原・元岡地区の関係者で紛争が生じたとある。この解決のため新規水利組合が設置され、翌年の昭和 16(1941)年に幸川から水を導入する事業が竣工した。本件のような話し合いは、実は大正 4 年にも議論がなされたが、実際に導水路が完成したのは上述の昭和 16 年のこととある。写真 1 は幸の神湧水に源を発する水利用の取り決めについて、瓜尾（ウリオ）溜池（現、大坂の池）と大久保溜池に水を導水する条項を分水碑（石碑）に刻んだものである。現在、この分水碑に刻まれた文字は風化・劣化により一部読みづらくなっている。なお、最近の地図では瓜尾溜池は大坂の池と記載されている。後述の写真 2 中に示すように元岡、桑原間の小さな峠の頂上付近を大坂と呼び、「大久保溜池が用水不足の時は幸川から大坂掘り切りによって引き水する」との記載がある（元岡村誌、1961）。筆者らは碑文内容を確認するため、2009 年 5 月 25 日に地元の開（ヒラキ）水利組合長である宗真氏にご同行頂き、碑文内容を確認した。分水碑に刻まれた条項は以下のとおりである。

契約条項

桑原區會ノ協議ヲ經テ左ノ通り協定ス

- 一、幸川流水ヲ此處ヨリ大字元岡瓜尾大久保兩溜池ニ分水ス
 - 一、期間ハ毎年十月ヨリ翌年四月迄トス但シ十月十一月十二月ノ三ヵ月ハ専用スル事ヲ得
 - 一、代償トシテ大字元岡字中開五拾八番地田貳反歩ヲ提供ス
- 以上



写真 1 分水碑



写真 2 調査対象地域の概要と字

従来、幸川は明治時代以前、桑原の立浦池東部から今津湾に流れていたとある。それを明治元年(1868)に津元(写真 2)の干拓によって河口を大原(オオバル)に変更することになり、現在のようになった(元岡村誌、1961)、とある。明治以前の幸川が今津湾に流れていたとされる具体的な流路を示す資料は残っていないが、元岡村誌には、次のように記載されている。「明治元年、旧来幸川は桑原立浦から才平田(サイヘイダ)、津田を経て、今津村津元に流れていたのを津元の干拓に依って、河口を大原に変更することとなり、施工は現在に至っている」とある。筆者らは、現在、地図に残されていない字名を服部英雄編(1999)の文献から、字名を写真 2 に記載した。また、元岡村誌に記載されている地名(字名)をたどって、当時、幸川が今津湾に流れていたとされる想定流路を破線で示した(写真 2)。幸川の河口を大原に変えたことで、現在のような、幸川、大原川という呼び名が混在したと思われるが、地元では桑原川という呼び名も存在する。ただし、前述の福岡市公報、平成 17 年 3 月 31 日をもって、正式に幸川と大原川の名称区間が確定された。

3. おわりに

本地域が、目下、九州大学の移転地として開発整備される中、地域の残すべき水の歴史がある。幸川分水事業において、その分水碑に刻まれた内容は、当初から契約文書として存在していない。宗真氏(桑原地区在住)によれば、当時は文書として残すことより石碑に刻んだほうが確かであろうとのことであった。しかしながら年々、その刻字は読みにくくなっている。また、中村公利氏(桑原地区在住)によれば写真 2 に示した字、才平田にビニールハウス設置のため土地を掘削した際に川砂が出てきたと伺った。

地元では水利用・水文化に関する歴史を知る者が少なくなったと聞く。筆者らは今回、幸の神湧水と幸川、大原川を中心に、本地域の水利用・水文化の記録として後世に伝える必要を感じ、寄稿した次第である。

参考文献

日本図誌大系九州 I(1976) : 110-116, 朝倉書店.

服部英雄編(1999) : 筑前国怡土庄故地現地調査速報, 地域資料叢書 4, 九州大学大学院比較社会文化研究科服部英雄研究室.

福岡市公報(2005) : 普通河川の指定の告示の一部改正 (第 95 号), 第 5245 号 (別冊 4) .

元岡村誌編集委員会(1961) : 「元岡村誌」, 元岡村役場.